

《増補版》



2003/  
No. 6

100平方メートル運動の森・トラスト

## 第一次回帰作業結果報告 (1998~2002年の森づくり)



- 1977年 「しれとこ100平方メートル運動」の提唱・開始
- 1997年 20年目で募金目標に到達  
新たな展開「100平方メートル運動の森・トラスト」  
のスタート
- 1998年 森と生態系を再生する作業が本格的に始まる
- 2000年 シカ対策の集中的な検討を開始
- 2002年 運動地を一巡した第一次回帰作業が完了
- 2003年 夢の森へ向けて、第二次回帰作業が始まる！

この用紙は環境保全(資源活用)のため  
再生紙を使用しています。



NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか！

いのちあふれる森を次の世代へ

かつてそこは深い原始の森で覆われていた  
様々な木々が無数の種を落とし、数え切れないほどの生きものを支えながら、  
長い長い森の時代が続いていた

ある日、人の生活と引きかえに巨木は倒され、  
決して絶えることのなかった命の環がぶつりと切れた  
もうこの土地はどんなふうに姿を変えても不思議ではなかった

1977年。ここが「知床」であり続けることを望んで立ち上った人々がいた  
はじめ小さかった波は次第に大きなうねりとなり、確実に何かが変わっていった

21世紀となった今、この地をもとの原生林に戻し、  
一度切れた命の環をつなぎなおそうと本気で考えている人々がいる

## 100平方メートル運動の森・トラスト

遙かなゴールを目指す長い旅は、まだ始まったばかりだ



100平方メートル運動地を5年で一巡する森づくり作業が、まず第一回目の区切りを迎えました。予想以上の苦労もあり、また新たな発見もあった5年間でした。

知床の自然が教えてくれた現実を謙虚に受け止め、次の回帰作業に活かしていきたいと思います。今後とも引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

斜里町長 午す

# しれとこ100平方メートル運動の展開

土地を守る

知床で夢を  
買いませんか!

昭和52年～  
「国立公園内しれとこ  
100平方メートル運動」  
の開始

・開拓跡地を乱開発から守れ！  
・全国4万9千人の夢  
↓  
470ヘクタールあまりの土地  
を買い取り  
・約42万本もの苗木を植えてきた

原生の森へ  
と育てる

知床で夢を  
育てませんか!

平成9年～  
「100平方メートル運動の森・トラスト」  
への展開

- \*保全の強化→「譲渡不能の原則」制定
- \*担い手を配置→「森の番人」
- \*人工植林地を自然の森へ誘導する  
→5年で全体を一巡する作業
- \*生き物たちの営みも復元
- \*森を通じた交流



知床連山の山麓に広がる約862ヘクタールもの運動地。  
そこは5つの区画に分けられ、一年に一区画ずつ5年で一回りする着実  
な作業が行われています。平成14年、最初の一巡が完了しました！  
今回の「しれとこの森通信」は、5年に1回の森づくりの報告を兼ねています。

# 森づくり 作業の5年間

## 苗木づくり



森林再生の基本となる苗木の生産。シカを防ぐ柵で囲った2ヵ所の苗畠を平成10年～11年に造りました。そこでは、運動地やその周辺で採集した種をまき、移植に耐えられる苗木にするための根づくりをして、一定の大きさになるまで大切に育てています。

この5年間に育ててきた苗木は、ミズナラ、カシワ、ハルニレ、オヒヨウ、キハダ、ヤチダモ、シウリザクラなど16種、1万本以上にもなります。これらの苗木のうち約3600本は、すでに運動地各所に建てられた防鹿柵内に植えられています。



原生の森を再生することを目指して始められた森づくり。そこには、予想を越えた困難が待ち受けていました。その中でもとりわけ大きな課題が、高密度に生息するシカの存在。試行錯誤しながら進めてきたこの5年間には、新たな発見、失敗と成功がありました。

## 防鹿柵の威力

● 柵内では種々の広葉樹  
が生え育つてき  
る



運動地ではシカの急増によって、林床の植生は衰退し、シカ的好む広葉樹の育成は極めて困難になってます。ただし、柵で囲って物理的に寄せ付けないようにすれば、このように再び広葉樹が育つことが明らかになりました。

写真は、カラマツ植林地での樹種の多様化を図って平成10年に柵で囲んだエリアです。今日では多種多様な幼木が育つてきています。

このように柵外では  
広葉樹は全く育つ  
こない！ ●



柵内で良好に育つホオノキの幼木

## 森づくり作業の5年間



❶4つの池を掘った。挿し木したヤナギはシカの餌と化して全滅



❷ペットボトルで保護してみたが熱がこもったりでまたもや壊滅



シマフクロウの春先の餌となる力エルを増やすために、平成10年に産卵用の池を堀り、周りに将来の止まり木にもなるヤナギを挿し木しました。しかし、シカの影響や乾燥によって簡単に育たず、ペットボトルや金網を巻いたり、数本を組むように植えたりと試

行錯誤を繰り返してきました。平成14年にはミニ防鹿柵で囲って今度こそ！と思ったのですが虫に食べられてしまい…これからもチャレンジは続きます。池では力エルやサンショウウオの産卵が毎春確認されています。

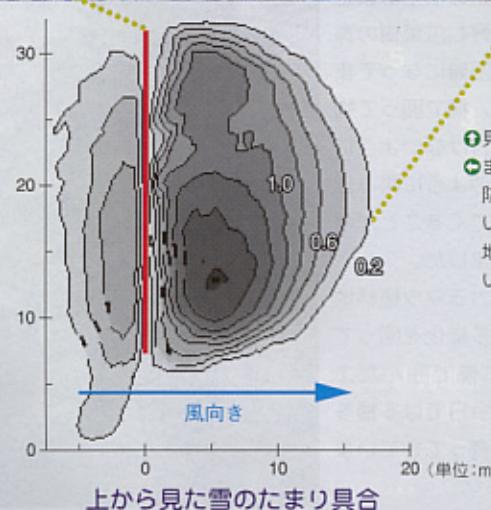
平成14年



運動地には真冬に連山からの強い風がまとまに吹きつける場所があります。そこでは雪がたまらないので苗を植えても風に叩かれてなかなか育ちません。

そこで風当たりを弱める柵を試験的に建ててその効果を調べたところ、左のように風下に大きな吹きだまりができることが確認されました。ここに苗を植えれば冬でも雪の布団に守られます。

現在、下の写真のような連立型や防鹿柵との合体型があります。



❷6基を連立させた防風柵群 ❸防鹿柵との合体型

## 力エル池とヤナギ

## 強風から苗を守る柵

## 森づくり作業の5年間

## 多様な広葉樹を植える

苗畠で育ててきた様々な広葉樹の苗木が山に植えられるサイズになった平成13年から本格的な植え込みを開始。平成14年にはミズナラ、ハルニレ、オヒヨウ、キハダ、ヤチダモ、サクラ類など約3000本もの苗を植えました。

これらは、ササ原の森林化や植林地の樹種多様化を目指したもので、広いエリアを囲った防鹿柵の中で行われています。次の回帰作業でもさらに別の場所へ広葉樹苗を植えていきます。



①多様な広葉樹が育つようにアカエゾマツ・シラカンバ植林地の密度を調整して柵で囲った



②植林地に混ぜ込むように植えたミズナラの苗木



③カツラ、オヒヨウ、キハダなど柵の外では大きく育たない稚樹たちがたくさん！

岩尾別川沿いには、失われたカツラの大木の河畔林を再生するために、三種類の防鹿柵をつくりました。

一つ目は、河原に小さく取り残されている林内につくったもので、母樹からまかれる種により様々な広葉樹が生え育っています。

二つ目は、柱を打ち込めない石だらけの河原でも設置できる構造に工夫したもので、平成14年にハルニレ、カツラなどを植え込みました。

三つ目は、木の生えていない河原を広く囲い、運び込んだ表土を被せたもので、広葉樹苗を多数植えています。



④これはシマフクロウが柵に止まれないようとした工夫。

柵の横には車道が通っているので、柵から飛び立つフクロウと車がぶつかることのないようにした配慮。

こんな気配りも森づくり作業には欠かせない。



⑤石だらけの河原につくった柵

## カツラの林を再び！

## 森づくり作業の5年間

辺り一面のササ原を森に変えていくための手法として、地面をおおっているササを剥いで表土をあらわにし、自然にまかれる種からの発芽をうながす…そんな試験を平成10年に開始しました。

その後、発芽の状況を毎秋調べていますが、順調に育っているものはいまだにほとんど見つかっていません。

この原因としてはシカの影響ももちろんあります。この手法自体が運動地の環境に合っていないのかもしれません。



地面を剥いでから、左が1年後、下が4年後の様子。ほとんど変わっていない！



## 地剥ぎ 効果あがらず

年を追うごとに、より多くの樹種にダメージが広がっているシカの樹皮食い…雪解けの頃、樹皮をむかれた樹がそこかしこで目に付きます。幹の全周を食べられるとその樹は枯れてしまうため、特にシカの好むイチイ、オヒヨウ、キハダ、ハルニレ

などは以前に比べて激減しています。そこで、樹皮食いが進行している樹種について、シマフクロウが巣をつくる可能性もある大木からまだ若くて細い木まで、これまでに140本以上の樹皮保護を進めてきました。樹皮に巻きつけるものとしては、金網

ポリエチレン製ネット、さらには廃品活用のペットボトルなど色々な素材を試しています。

運動地には他にも多くの保護すべき樹が残っているので、今後も精力的に樹皮保護を進めています。



貴重なハルニレの大木を守る！



●ペットボトルを巻きつけなかった木は樹皮食いで枯れてしまった



少し目立つが、これも希少な樹種を残すため

## コクワさえも 緊急保護！

ヒグマの大好きな実をつけるコクワへの樹皮食いも平成11年頃から本格化！その一部については、ツルをネットで巻いて守ったり、樹皮食いされて枯れかけているものを苗畑へ移植したりしています。



樹皮を保護して樹を守る

## 森づくり作業の5年間

## 森づくりの計画を決める

太古の森と生態系を復元してゆくことを新たに掲げた平成9年。100年以上先を見据えた森林再生計画を立案するために、植物生態や野生動物などの専門家と地元の有識者からなる専門委員会議が組織されました。



毎年開かれるこの会議で、「森の憲法」となる不变の原則、森や生態系の再生の将来構想、毎年の森づくり作業の結果や翌年の計画などが様々な角度から議論され慎重に決められています。

## ● 森林再生専門委員 ●

**石城謙吉**（専門委員会議座長、北海道大学名誉教授）

**青井俊樹**（岩手大学農学部農林環境科教授）

**甲山隆司**（北海道大学大学院地球環境科学研究科教授）

**石川幸男**（専修大学北海道短大教授）

**梶 光一**（北海道環境科学研究センター自然環境保全科長）

**山崎 猛**（運動推進本部役員、斜里町自然保護審議会副会長）

**石井政之**（運動推進本部役員、斜里町自然保護審議会副会長、知床自然保護協会会长）※平成13年度に退任

**綾野雄次**（知床自然保護協会理事、鳥獣保護区管理員）

※平成14年度に就任

## 検討されたエゾシカ対策

森づくりを進めるうえで最大の問題となったのが高密度に生息するシカの強い採食圧です。特に広葉樹を育てるにはシカから守るために作業が不可欠になり、これが最も労力のかかるものになりました。

知床岬で平成11年に、それまで確認例がなかったミズナラの大木にまで樹皮食いが始まったことから、シカ対策を早急に考えていくために、専門委員のほかに野生動物専門家を

加えた「シカ対策ワーキング会議」を翌年発足させました。そこでは、2年間かけて集中的な検討が行われました。



○柵の外は、まるで芝刈り機で刈ったよう！  
これだけ強いシカの食圧

## ● シカ対策の基本的な方針 ●

「シカの人為的な調整は行わない」とした平成29年までの中期方針に則ると、今のシカの密度のなかで広葉樹を育てるためには、防鹿柵で囲うか一本ごとにネットを巻いて守るしかない。

柵はあまり大規模なものではなく数ヘクタール程度のものを効果的に配置していく。また、自然林の推移をモニタリングするための柵も設けていく。

樹皮保護をさらに進めていくことも重要。運動地で希少になっている樹種を優先して、見つけ次第ネットで守っていく。

これらはいずれも、シカとの長期戦になることを覚悟して進めていく。

# 生物相復元 の5年間

## 第一弾の復元生物 “サクラマス”

かつて運動地の川には多くのサクラマスが棲んでいました。しかし、20年以上前からその姿はほとんど見られなくなりました。

このサクラマスを蘇らせる目指して、平成11年～13年の間に4回、合計で10万尾の稚魚と33万個の卵を運動地の二つの川に放流してきました。

産卵のために海から戻ってくる最初の年だった平成13年から続けている調査では、合計で15尾の親魚と6カ所の産卵した跡がこれまでに見つかっています。しかし、この数は海に降りたことが確認されている若魚の数に比べても少なすぎます！

この原因を探るためには、河川環境の調査のほかに、彼らの海での生活にも目を向けていく必要がありそうです。



また、岩尾別川ではいくつもの堰堤が障害となって、産卵に適した上流部までさかのぼっていけないという問題があります。この問題の解決もこれからの重要な課題です。



シロザケ・カラフトマスの  
自然産卵復元

知床では秋になると多くのシロザケやカラフトマスが川に上ってきますが、運動地を流れる岩尾別川では河口近くにある堰堤で魚が止められているので、ほとんどの親魚はそれより上流へさかのぼって産卵することができません。

そこで、さけます孵化場の協力を得て、平成11年～14年の4年間にシロザケ約2300尾、カラフトマス約1750尾を堰堤の上流へ運び上げて放流しました。これによって広い範囲で自然産卵が行なわれるようになりました。



## 森と海の循環

栄養豊かな北の海で大きく成長した魚が川をさかのぼり、その魚を食べた動物達が陸上に糞を落とす。このような「海の栄養分が陸へと運ばれて豊かな森を育む」一連の流れがほとんど断ち切られている今日、森はやせつつあります。サケやマスの自然な営みを復元することは、動物達の餌が増えるだけでなく、森と海を結ぶ栄養循環の復元にもつながっていくのです。



## サケとクマとヒト

サケやマスが自然産卵するようになって間もなく、この魚を求めてヒグマが頻繁に道路近くに姿を現すようになりました。ところが、この様子を見物しようとする人々が大挙して訪れ、中にはクマに近づく人もでてきたことから、事故が起こるまえに仕方なくこのクマは追い払われました。

動物達が自由に暮らしていくようにするために、餌や生息環境だけでなく人間側の行動のルールも必要になってきます。

## 第二弾の復元生物は何に？

専門委員会議では、サクラマスに続く復元対象生物の候補として、シマフクロウ、オジロワシ、クマゲラ、オオタカ、マダラウミスズメの鳥類5種と、カワウソ、オオカミの哺乳類2種を選びました。

鳥類については、どの種も運動地の周辺に生息しているので、将来運動地でも繁殖していくよう、今後の森づくりの中で彼らにとっての生息環境を改善していくことになりました。

カワウソとオオカミについては、どちらも北海道では絶滅しているので復元するには国外からの導入が必要になります。肉食獣を復元するには、人の活動への影響の予測と対処、国外での復元例の研究、法律の整備など、さまざまな視点が必要です。今の段階ではこれら絶滅動物の復元には多くの困難な課題があり、今後も長い目で取り組んでいく必要があります。



## なぜ絶滅動物の復元なのか？

近年、欧米諸国を中心にカワウソ、オオカミ、クマなどの肉食獣を、過去に絶滅した地域に蘇らせる取り組みが始まっています。このような絶滅種の復元は希少種の保存に並ぶ自然保護上の大きな課題になってきています。

これは、自然界の食物連鎖の頂点に立つ肉食獣の存在が地域の健全な生態系に必要な要素であり、また人が自然に寄せる畏敬の象徴だったことに気がついたためでしょう。

もちろん、それが人間活動を阻害するものであってはならないため、国外の例

でも事前に多くの時間をかけた検討と論議が行われています。

カワウソやオオカミを復元する場合、その行動範囲は小さな地域である運動地内に收まりきらないため、全道的な論議が必要となります。それでもこの課題に取り組んできたのは、日本のナショナル・トラスト運動の先駆けのひとつであり、また背後に知床半島の原始的自然が広がる100平方メートル運動地こそ、この困難な課題の検討を始めてみる場としてふさわしいと考えたからです。

(平成14年度第二次復元生物種検討結果報告より要約)



# しれとこの森 交流事業 の5年間

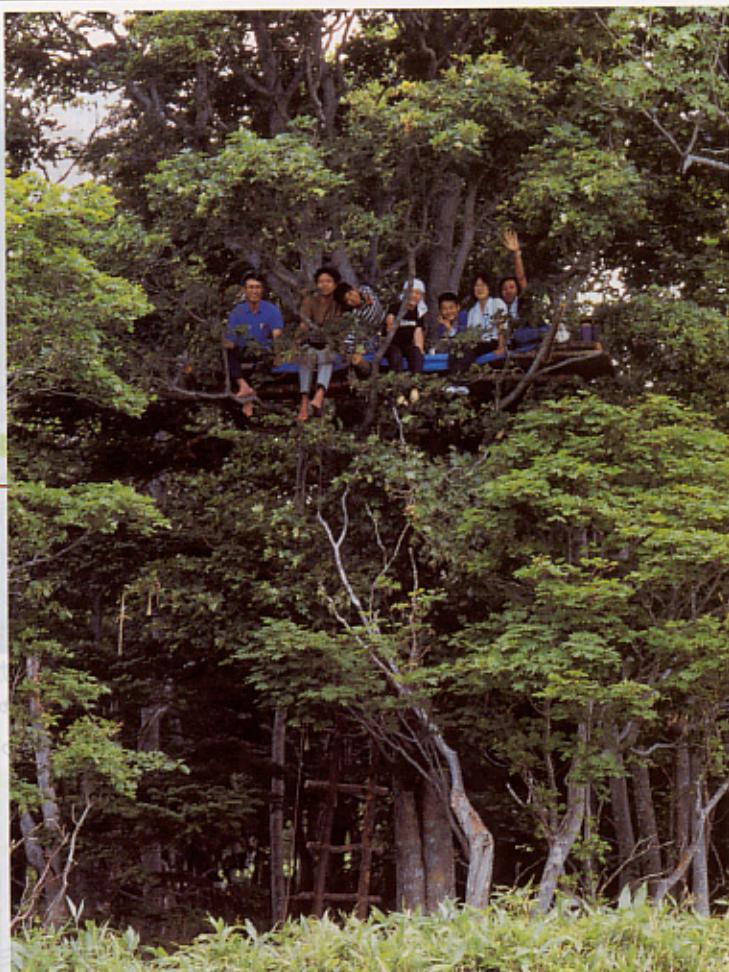
## 知床自然教室

毎年7月30日からの1週間、全国各地から  
参加した子どもたちが知床の森で過ごしました。

5年間で137名、暑い夏も冷い夏もありました。

テント張りも食事づくりもトイレ掘りも、指  
導員やリーダーの手を借りながらも全て自分た  
ちでするキャンプ生活。雑草取りやペットボト  
ルでの樹皮保護など森づくりのお手伝いもしま  
した。

山や川や海で思いっきり遊び、動物たちの気  
配も身近に感じながら生の大自然を体感する…  
そんな教室です。



ツリーハウスはみんなの大気に



森の中の素敵なベンチ



樹にペットボトルを取りつける。  
守られた樹はいまも健在!



番人が教える森の授業

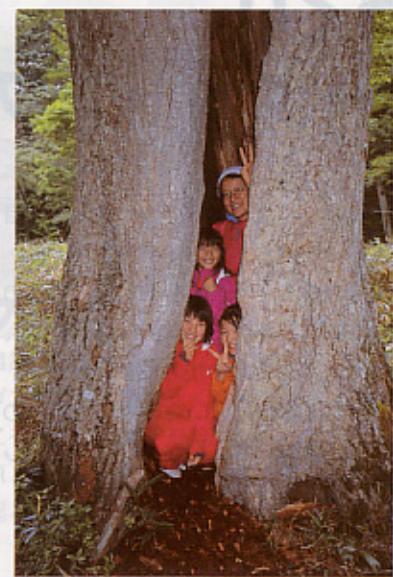


ヒグマの冬眠穴は二人で入っても余裕



苗がよく育つようにみんなで草取り

水道や電気がなくても楽しく過ごせる  
ことに誰しもが気づいていく



## しれとこ森の集い

毎年9月中旬に開催された記念植樹祭。  
この5年間に500名以上の方々が参加し  
て、アカエゾマツやトドマツの苗木約  
2400本が植えられました。

また、森の番人の案内で運動地の各所を  
巡って森づくりの様子を見学しました。



平成14年は、知床で開催された第20回  
ナショナル・トラスト全国大会の一環と  
して行われ、約200名の方が樹を植えま  
した。

# 森づくり ワークキャンプ

さまざまな森づくり作業を実際に体験し、自らの体をとおして森を理解する濃密な6日間。

老若男女が合宿形式でわいわいと過ごすこのワークキャンプは、毎年11月の第1週に開かれ、5年間でのべ55人が参加されました。

普段の生活では味わえない森の中での作業の面白さや空気の美味しさにひかれて、繰り返し参加されている方も少なくありません。

5年間で55人の方々が参加しました。  
テクノロジーと自然との調和をめざす地元の地



みんなで団結して建てた手作りの柵



いい汗かいて、お昼を食べたら…



実物を見ながら聞く森の話

森の番人とともに種まきや植樹のほか、防鹿柵建てや樹皮保護のためのネット巻きなど、人手と時間の必要な作業を行ってきました。

それは森づくりの現場にとってかけがえのない支援になっているとともに、夢の森を育していくための確かな一助となっています。



番人が繰り出す鮮やかな職人技を見落とすまい！  
とみんな真剣な表情。



平成14年は(社)日本ナショナル・トラスト協会の主催する国際ワークキャンプのメンバーと一緒に、植樹や樹皮保護作業を行いました。

ナショナル・トラスト発祥の地であるイギリスのほか、韓国や台湾からも参加者が集いました。

# しれとこの森にふれてみませんか？

## 平成15年度 しれとこの森交流事業のご案内

今年も3つの企画で皆さんをお待ちしています。  
どうぞお気軽にご参加ください。



### 知床自然教室

カムイたちの棲む森へ！運動参加者の皆さんの子どもたちが、キャンプ生活をしながら知床の大自然を満喫する7日間です。経験豊富なスタッフとともに歩く海、山、川、そして森づくりのお手伝いをする体験は、忘れられないものになるでしょう。

●期 間 平成15年7月30日～8月5日

●対 象 小学校4年生～高校3年生

●参 加 費 35,000円～166,000円  
※集合場所からの往復の航空運賃及び滞在費の全てを含みます

●集合・解散 全国の主要な空港にて集合・解散

●締 切 平成15年7月8日

●問合わせ 知床自然センター

申込先 Tel: 01522-4-2114  
Fax: 01522-4-2115

#### ○主な集合場所からの参加費用

	斜里町	札幌	東京	名古屋	関西	福岡
小 学 生	35,000	67,000	84,000	86,000	90,000	118,000
中学生以上	35,000	77,000	121,000	126,000	134,000	166,000

### しれとこ森の集い

午前中は森の番人の案内で森づくりの様子を見学。午後は運動地の草原で植樹祭を行います。

※午前のみ、あるいは午後ののみの参加も可能です。

●期 間 平成15年9月21日

●参 加 費 無 料

※集合場所までの交通費は各自の負担となります。

●問合わせ 斜里町役場自然保護係

申込先 Tel: 01522-3-3131  
Fax: 01522-2-2040



### 森づくりワークキャンプ

森の番人とともにみんなで森づくりに汗を流す合宿。色々な作業を体験することで「森づくり」の奥深さと楽しさが実感できます。夢の森へと近づけるために！

※今年から先着順としましたので、お早めにお申込みください。

●期 間 平成15年10月29日～11月3日

●対 象 18才以上

●定 員 12名（先着順で定員になりしだい締め切ります）

●集合・宿泊 知床自然教育研修所

●参 加 費 18,000円（宿泊費・食費を含みます）  
※集合場所までの交通費は各自の負担となります。

●締 切 平成15年10月15日

●問合わせ 知床自然センター

申込先 Tel: 01522-4-2114  
Fax: 01522-4-2115



# 皆様とともに進めた森づくりの5年間

## 数多くのご支援にお礼申しあげます

平成9年に運動の新展開がスタートし、その翌年から本格的な作業が始まった夢の森づくり。平成14年までの第一次回帰作業において、多くの方々や団体・企業から様々なご支援をいただきました。これまでに8000人近い皆様からいただいたご寄付は、まもなく1億円に達しようとしています。

また、ワークキャンプに参加された皆様やボランティア

この5年間でボランティアの方々に手伝っていただいた作業は、毎年100名の人が働いたほどになります。この力は、現在限られた人数で森づくりを進めているなかで、なくてはならない重要な助けとなっています！

また、森づくりワークキャンプに参加された方々が汗を流して行った作業によって、総延長800mにおよぶ柵の設置、2000本近い苗木の植樹、100本もの希少木の樹皮保護が進みました。

(有)グリーンカップには、樹皮保護用のネットを無償で提供していただきました。このネットにより100本近い樹皮保護を行うことができました。

サクラマスの復元を進めるうえで、さけ・ます資源管理センター北見支所斜里事業所には、手法の検討から実施までに多くのご協力をいただきました。

シロザケ・カラフトマスの放流作業には、北見管内さけ・ます増殖事業協会岩尾別捕獲採卵場の全面的なご協力をいただきました。

運動地でのボランティアによる森づくりツアーや企画された(財)イオン環境財団には、約4000本以上のアカガシの植樹、5基もの防風柵の設置にご協力をいただきました。さらに、平成15年以降も新たな防風柵の設置や広葉樹の植樹を斜里町との共同事業として進めていくことで、ご支援をいただくことになりました。

次の5年間も  
どうぞよろしく  
お願ひ申しあげます

で集まった方々には、現地での数々の森づくり作業を手伝っていただきました。また、森づくりに必要な資材の提供などバックアップをしていただいた団体・企業もありました。ここに改めて感謝の意を表します。

なお、今回の「しれとこの森通信」は、昭和52年からのすべての運動参加者の皆様にお送りしています。



# しれとこの100平方メートル運動25周年記念 第20回 ナショナル・トラスト全国大会

森の再生と  
未来への夢—  
そして

## 21世紀のナショナル・トラストへ

平成14年9月13日から15日の3日間、第20回ナショナル・トラスト全国大会が斜里町で開催され、町内はもとより、全道・全国から500名余りが参加しました。

大会では、「ナショナル・トラスト講座」、各地の活動報告や女優の星野知子さんによる記念講演が行なわれました。また、シンポジウムやワークショップもあり、活発な議論が交わされました。宮崎駿監督とスタジオジブリのご協力によって開催した親子映画会「猫の恩返し」も大盛況でした。

最終日には大会のまとめが行なわれ、大会宣言として「知床宣言2002」が採択され閉会しました。

今大会では、知床をはじめ、全国各地のナショナル・トラスト運動が取組んできた歴史や経緯が再評価された一方、21世紀のナショナル・トラスト運動に求められている課題が挙げられました。

第1の課題は、運動の自立性です。各地で多様な市民活動を基盤として始まった運動が、NPO法人化したり、行政や事業者との連携が図られるなど、自立性をもちつつあります。しかしながら、それを支援する法制度や税制度も十分整備されていません。

第2の課題は、新たな運動展開です。これまでのナショナル・トラスト運動は、保全対象の土地取得を中心でしたが、確保した土地の維持管理や環境学習への活用が求められる段階に進みつつあります。

第3の課題として、トラスト団体どうしのネットワークが一層重要になってきています。各地域の知恵を結集し、政策への

発言力を強めるためにも地域間の連携や国際的ネットワークが欠かせません。

100平方メートル運動は土地の保全から、森林再生の段階に踏み込んだ点で、各地のナショナル・トラスト運動に対する先駆的な役割も担っているといえます。一方で、各地の団体が行なっている多様な活動から、取り入れていくべき要素もたくさんあると考えられます。今大会の成果をふまえて、新たな運動展開が必要になっています。

### <知床宣言2002>（抜粋）

…ナショナル・トラスト運動によって守るべきものは究極的にはその土地の「風景」である。「風景」には単なる自然だけでなく、今そこに住んでいる人々の営みと先人たちの残したもののが含まれる。「風景」保全のためには土地の所有のみならず、土地の利用や公開、管理にまで関与していく必要がある…

…21世紀のナショナル・トラスト運動は、(1) 経済的に自立し(2) ナショナル・トラスト運動を発展させる法制度及び税制度をつくりあげ(3) 土地の保有や維持管理を着実におこなう仕組みをつくり(4) 保全地の賢明な活用を追求するとともに(5) 環境教育と学習の場として(6) 市民及びNPO、事業者ならびに行政の協働を進めながら、発展していくべきである…

…我々は今日、決意を新たに、未来の世代から預かっている環境を立派に子孫へ受け渡していくことができるよう、関係者一同全力を尽くすことを誓うものである。

### お悔やみ

100平方メートル運動関東支部長で、「ドクター」の愛称で親しまれていた岩崎憲太郎さんが、本年2月にご逝去されました。この場を借りてお悔やみ申し上げます。

また、新支部長に木内正敏さんが就任されましたのでお知らせいたします。

支部連絡先：(株)自然教育研究センター内  
TEL042-528-6595



# 未来の森を育む木々

森づくり作業では色々な種類の木を扱います。そんな木々の代表的なものを紹介します。

## 樹皮保護を進めている木

イチイ、オヒヨウ、ハルニレ、キハダなどのシカが好む木には、樹皮食い防止のネットを巻いています。種を育む母樹として、また、洞のできるような大木は鳥や動物たちの棲みかとして、これらの木を守っていく必要があります。



イチイ

イチイの実

赤みを帯びた樹皮と深緑の葉のコントラストが美しい針葉樹。秋には真っ赤な実をつけます。



ミズキ

ミズキの花

英語では“Table Tree”。テーブル状に広がった枝から純白の花を咲かせます。



オヒヨウ



ハルニレの花



ハルニレの葉



オヒヨウの葉

## ハルニレとオヒヨウ

エゾシカが特に好んで樹皮を吃るのが、ニレ科のこの2種。同じ仲間だけあって、この2種は一見そっくりですが、比べてみると、オヒヨウの葉は角がついた形をしています。



キハダの実



キハダ

樹皮をひと皮むくと、名前通りの黄色い肌をした木。ミカンの仲間なので、実は柑橘類の香りがします。

## 植林地に植えられている木

針葉樹を中心に、開けた環境でも耐えられる樹種が植えられています。開拓時代や運動によって植林されたこの木々は、防風フェンスの役割を果たすなど「自然の森をつくるための森」を担います。



シラカンバ

本州では標高の高い所でしか見られませんが、寒い北海道では平地にも普通に生えています。



アカエゾマツ

北海道を代表する木の一つ。過酷な条件でも育つので開けた環境に植えるのに最適。運動地に最も多く植林されている木です。



カラマツ

もともとは北海道に自生していなかった木。開拓時代に防風林として植えられたもの。秋には紅葉して運動地を黄色く彩ります。



トドマツの花芽



トドマツ

知床の森を代表する針葉樹。モミの仲間で、先のとがっていない柔らかい葉をしています。

## 苗畑で育てている木

天然の森から種を集め、運動地に植えていく苗を育てています。それは、多様な木が生える森を復元するために必要な広葉樹です。



苗畑で育つ苗



ミズナラ

知床を代表する広葉樹。直径1mを超える巨木になります。秋にはたくさんドングリを実らせ、ヒグマをはじめ森の動物たちに恵みをもたらします。



カシワ

海岸近くに多く、葉が柏餅に使用されることでおなじみの木。ドングリの木の仲間です。

カシワの雄花



ミズナラのドングリ

# 森林再生計画

～失われた原生の森と野生の営みを再生する～

## 長期全体目標(100~200年後)

- 1) 本来この地にあった原生の森を再生する。
- 2) 本來的な野生生物群集と自然生態系の循環を再生する。
- 3) トラスト資産としての運動地の適正な公開と保全のシステムを構築する。



## 不变の原則

不变の原則は、野生動植物研究の専門家5名と地元の有識者2名からなる専門委員会議で定められた「森の憲法」です。森林再生計画は、この原則を厳守しながら慎重に策定されています。

- 植林木の生長によって余剰の樹木が生じても、運動地の系外への人為的な持ち出しが認めない。
- 自然に再生しつつある二次林では、森づくりのためであっても、大規模な森林構造の急変は行わない。
- 再生計画の実施にあたっては、国立公園および自然教育の場としての位置づけに配慮した森づくりを進める。
- 5年一巡の回帰作業方式をとり、過去の作業結果を評価するモニタリング調査を欠かさない。
- 作業計画の立案や見直しは、定期的に開催する専門委員会議に諮り、承認を得なければならない。
- 野生動物とその営みの再生にあたっては、遺伝子汚染を防ぐこと。減少種の回復は、現地の個体群からの増殖を基本とする。また、絶滅種の復元では、遺伝的にも地理的にも極力近い個体群からの再導入を原則とする。

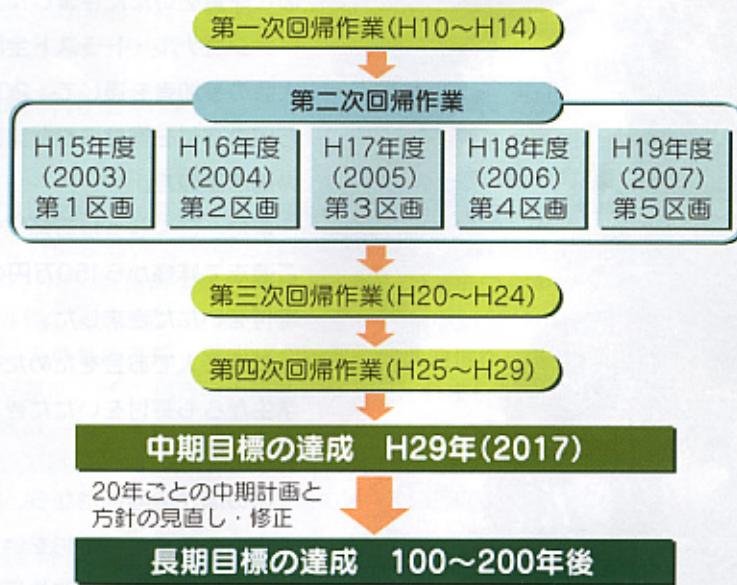
## 中期目標期間中の方針(平成29年まで)

- 作業の前後にモニタリング調査を行うとともに、放置区を設けて再評価と計画の見直しに備える。
- 急増したエゾシカへの対応には、生態系の調整能力を活用し人為的な調整は行わない。
- カラマツなど外来樹種については、森林再生の過程では活用するが、長期的には減少させる。



## 回帰作業方式

しれとこの森づくりは、運動地全体を5つの区画に分け、5年で一巡する回帰作業方式によって、作業が進められていきます。この作業を4回繰り返した20年後に中期目標の達成、さらに100～200年後には長期目標の達成を目指します。



## 第二次回帰作業では…

平成15年度～平成19年度

ササ原や草原を計画的に防鹿柵で囲いながら、森林化を図っていくことが決まりました。その一環として、数ヘクタールを囲む柵を建てて、そこに苗畑で育てた広葉樹苗を順次植え込んでいきます。

また、シカの樹皮食いによって数が減少しているイチイ、ハルニレ、キハダなどの樹皮保護作業をさらに進めていきます。

第一次回帰作業では、色々な森づくりの手法を各所で試みてきました。苗木の生産や防風防鹿柵の点検・修理など毎年続けていく必要のある作業はもちろんのこと、そのほかに試験的に行ってきました作業の効果を見るためのモニタリング調査を進めていきます。

運動参加者の皆さんと知床の森とのふれあいの場として、「森の交流事業」をこれからも続けていきます。

また、「生物相の復元」についても、第一次復元対象種として卵や稚魚を放流しモニタリング調査を行ってきた「サクラマスの復元」を中心に、引き続き進めていきます。

一本一本の樹を識別するための番号札。これをつければその樹の将来を追って調べられる。





NATIONAL TRUST  
The Shiretoko 100m<sup>2</sup> Movement

## 100平方メートル運動の森・トラスト

今年もたくさんのご寄付をありがとうございました

平成14年度も、多くの方々のご厚意をいただきました。

ナショナル・トラスト全国大会の参加者を通じて、200万円の寄付を寄せられた東京の篤志家の方。

また、亡くなったお姉様のご遺志で妹様から150万円の寄付をいただきました。

友達2人でお金を作った小学生からも寄付をいただきました。

このほか全国各地から、たくさんの皆様のご寄付をいただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

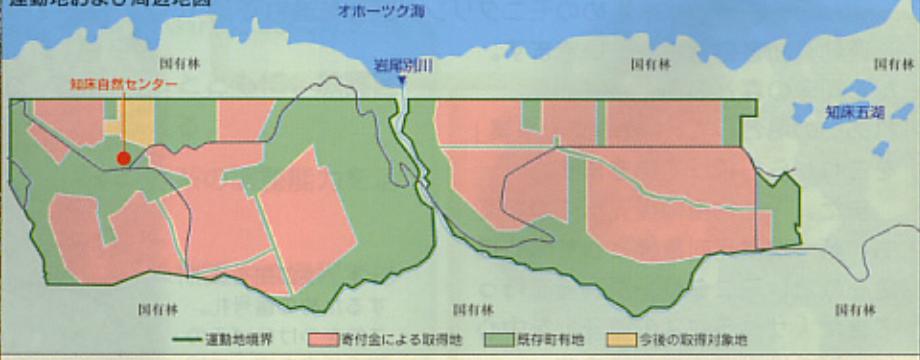
皆様の知床への熱い想いに応えていけるよう、これからも知恵と力を尽くしてまいります。

都道府県別参加状況(平成15年3月末現在)

都道府県名	件数(人数)	都道府県名	件数(人数)	都道府県名	件数(人数)
北海道	1,268	石川県	29	広島県	87
(洞里町)	526	福井県	31	山口県	37
青森県	66	山梨県	18	徳島県	27
岩手県	32	長野県	70	香川県	32
宮城県	94	岐阜県	89	愛媛県	20
秋田県	24	静岡県	131	高知県	22
山形県	38	愛知県	465	福岡県	94
福島県	29	三重県	61	佐賀県	26
茨城県	135	滋賀県	52	長崎県	24
栃木県	72	京都府	197	熊本県	21
群馬県	91	大阪府	536	大分県	22
埼玉県	431	兵庫県	301	宮崎県	7
千葉県	427	奈良県	84	鹿児島県	14
東京都	1,401	和歌山県	31	沖縄県	45
神奈川県	878	鳥取県	23	外 国	22
新潟県	60	島根県	13		
富山県	34	岡山県	48	合 計	7,759



運動地および周辺地図



運動地面積約862ヘクタールのうち、現在97.4%の保全が完了しています。残る取得対象地の交渉は、今後も誠意をもって続けていきます。保全した開拓跡の未立木地への新規植林は、平成13年をもって完了しました。



# 平成14年度決算

## ■保全管理事業

平成14年度には、植林地約43haの下刈りなどの手入れを実施し、北海道の補助も受けながら約270万円を支出しました。事務費の主なものは、416万円あまりを要した「しれとこの森通信」の印刷・発送費用、ナショナル・トラスト全国大会の負担金350万円などです。

## ■森林再生事業

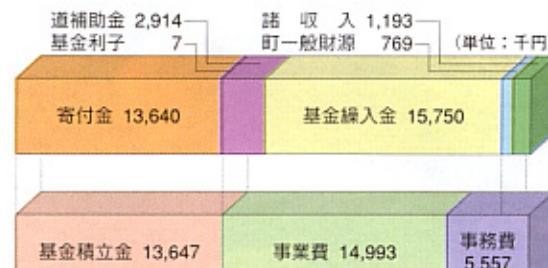
平成14年度は、約1.8haの防鹿柵を作り、その内部に広葉樹を植え込む作業などを行いました。その他、苗の育成、各種調査試験、防風柵・防鹿柵の維持管理・改良、防鹿柵内の植栽による未立木地の森林化作業などの森林再生作業に807万円、森林再生専門委員会議・シカ対策ワーキング会議の準備・運営と復元対象生物の調査や検討などに248万円、森の交流事業の準備・運営に255万円、森通信作成やホームページ運営管理に93万円の事業費が支出されました。これらの事業は、14年度から(財)自然トビアしれとこ管理財団に委託して実施しています。事務費の主なものはパンフレットや申込書などの印刷・受付事務員の賃金など556万円です。

## ■森林保全基金と資産の状況

国立公園内森林保全基金の状況

國立公園内森林保全基金				(単位:千円)(平成15年6月1日現在)		
土地保全管理資金(保全事業のための資金)			森林再生等資金(再生事業のための資金)			
	H13年以前	H14年	計	H13年以前	H14年	計
歳入	寄付金	522,534	0	522,534	成入	寄付金
	利息	67,875	11	67,886		利息
	計	590,409	11	590,420		計
歳出	土地取得	325,113	0	325,113	成出	事業費
	植林等事業	119,997	1,531	121,528		事務費
	事務費	81,543	0	81,543		計
計			526,653	1,531	528,184	
残高			63,759	△1,520	62,239	残高

保全された土地の現状		(単位:ha)
運動地面積	保全済み地域	849.98
861.90	(寄付金による取得地 459.26)	(既存町有地 390.72)
	今後の取得対象地	11.92



※75千円が翌年に繰り越されます

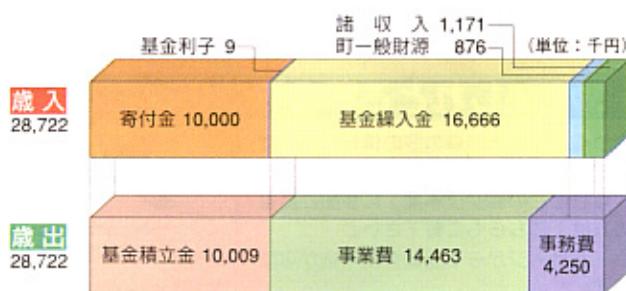
# 平成15年度予算

## ■保全管理事業

事業費として、平成13年度に取得した土地への新規植林、植林地の下刈りなどに、道補助を含めて558万円あまりを支出します。事務費358万円のほとんどは、しれとこの森通信発行費用です。

## ■森林再生事業

平成15年度の事業費は総額1,446万円あまり。このうち森林再生作業に782万円をあて、第二次5年回帰作業の初年は、第一次の5年間の実施成果をふまえて新たに広い圃い区を作り、多様な広葉樹の森づくりを行います。苗畠では、生長した苗の床替えなどを行います。また、復元生物の検討・調査も引き続き実施します。また、森林再生専門委員会議の運営にも約202万円、交流事業に約290万円、5年回帰報告の企画・作成と印刷・発送に153万円があてられます。事務費は作成や事務賃金など425万円が見込まれています。



# 知床で夢を育てませんか?

数百年先を目指して一歩一歩進めている森と生物相の復元作業は、皆様から寄せられる毎年の寄付金によって支えられています。次の5年間においても、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



- 証書の絵は、当代随一のワイルドライファート作家 田中豊美さんの手によるものです。
- メッセージを書き込むこともできます。例えば「祝 お誕生」など。お知り合いへのプレゼントとして、ご協力いただくこともできます。
- 地元、斜里の木工サークルの方々手作りの証書専用額縁も用意しております。センノキの美しい木目が好評です。詳しくは参加申込書をご覧ください。

## 劇団シンデレラ公演

昨年11月、1通の手紙が届きました。名古屋市を拠点に活動している劇団シンデレラの座長をされている方からです。手紙には、その方が知床を訪れたとき、自然解説員から100平方メートル運動の森・トラストのことを聞いてとても感動したこと、その感動をもとに、名古屋に戻ってから森を守る大切さを訴えるミュージカル「ドジラと森の迷子たち~100年後のみどりの森へ~」を創作し、上演していること、そして斜里町でもぜひ上演したいという熱い思いが書かれていました。

現在、今年12月の斜里公演開催に向けて準備を進めています。



## ネットでつながるしづとこの森

- \*森づくりや知床の森の今の情報が盛りだくさんです。
- \*「しづとこの森交流事業」に参加ご希望の方は、こちらもご覧下さい。
- \*ホームページからも運動参加申込が可能です。

\*URLが下記のとおりに変わりました!  
<http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>



## 運動に参加するには?

申込書を郵送またはファックスにてお送りください。ホームページからの申込みもできます。

寄付金は1口5,000円。何回でもけっこうです。郵便振替か現金書留で、斜里町役場までお送りください。

### ●郵便振替の場合

口座番号: 02740-8-10555  
加入者名: 斜里町役場

### ●現金書留の場合

申込書も同封の上、斜里町役場自然保護係へ直接郵送ください。

(注) ホームページからの送金はできません。

## 運動に参加すると!

- 将来の知床の森をイメージした募金証書を発行いたします。
- ご寄付いただいた年の活動状況を、翌年に「しづとこの森通信」でお知らせします。
- 運動地の森を通じて交流し、森づくりにたずさわる機会(しづとこの森交流事業)を提供します。
- 5年周期の森づくり計画が一巡する毎に報告書をお届けします。次回は平成20年にお送りします。

## 寄付金は所得税控除の対象となります

- 当運動へのご寄付は所得税法第78条第2項の規定に基づく特定寄付に該当します。
- 所得税の課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 対象となるのは1万円以上のご寄付です。

## お申込み・お問い合わせ先

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地

斜里町役場自然保護係

TEL 01522-3-3131 (内線125)

FAX 01522-2-2040

## カードで森づくりをご支援ください!

財團法人地球防衛基金と株式会社ダイエーオーエムシーでは、地球環境保全に貢献するクレジットカードを発行しています。その中の「知床の自然を守る」カードを使うと、皆様のご負担なしで運動にご寄付いただけます。

\*ご利用額の0.5%が、カード会社の負担で「100平方メートル運動の森・トラスト」に寄付されます。

\*買い物をしているだけで、新たにご負担なしに運動をご支援いただることができます。



### お問い合わせ先

〒141-8511

東京都品川区西五反田7-21-1

株式会社ダイエーオーエムシー カード会員開発部

「OMCエコロジーカード」係

TEL: 03-3495-8615

<http://www5.mediagalaxy.co.jp/OMC/eco.html>